牧野富太郎博士の演劇、ミュージカル特集

＊2022年10月発行　＊企画・制作・発行・デザイン／ 朝ドラ「らんまん」を応援する会
〒789-1201　高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方　kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

牧野博士のふるさと佐川町からも8名が出演！
牧野富太郎伝「草木の人」が桜座で再演されます

9月初旬、練習風景を取材させていただきましたが、皆さんの凛とした声に「やる気」がみなぎっていました。

「劇団 the 創」代表の西森良子さん曰く、再演が決まってから、偶然「朝ドラ決定！」の朗報が届いたそうです。

いろんな動きが一体化して、さらなる盛り上がりを作れますよう！チケットは、佐川町酒蔵ロードのキリン館さんや、桜座、高新プレイガイドでも取扱中だそうです。

牧野富太郎博士 生誕160年参加作品　牧野富太郎伝
「草木の人」
■日　時　10月23日（日）
　　午後1時開場　午後1時半開演
■場　所　佐川町立 桜座
■入場料　大人・こども1000円

「劇団 the 創」代表の西森良子さんに、お話をうかがいました。

この「草木の人」は、平成24年に、高知市内と佐川町で上演させていただきました。ありがたいことに佐川町の方から「もう一度見たい。是非、佐川で！」というお声がけをいただきました。そのことばに背中を押され、2年ぐらい前から再演を心に決めていました。

配役も決まり、いよいよ出発しようとした時に、なんと、朝ドラ決定の朗報が届いたんです。「牧野富太郎博士を朝ドラに」の会は、私もずっと応援してきましたので、とてもうれしく、びっくりして『あぁやっぱり今、牧野博士が求められている時代なんだな』と思ったことでした。

私たちの劇団にとりましても、博士は宝物です。舞台の内容は、ただひたすらに植物を愛し、花の精として「植物学」に一生を捧げた博士の姿を描いています。

妻 寿衛は、「妻は夫に従え」という時代の中で、単に富太郎に仕えたわけではなく、ひたすら花のために生きる夫の姿を見て「私がなんとかして支えないと！」と、同志のように成長してゆく。そしてこの2人は、大変な困難の中、それぞれその生き方を貫くのです。寿衛は病で亡くなってしまいますが、亡くなった後も、富太郎の心の支えとなり、生き続けたにちがいありません。

私が一番好きなことばは、「花はどうしてあんなにきれいなんだろう。どうして花に色がついているんだろう」という、富太郎の出発点ともいえる素朴な疑問のことばです。

他にも博士は「世の中に〝雑草〟という草は無い。どんな草にだって、ちゃんと名前がついている」という言葉を語られたそうです。

人間も一人ひとり個性があって、名前があって、人格があるように。また、人間だけが偉いのではなく、動植物が共存する世界の大切さも語っておられます。多くの人が博士に共感し支えてこられたように、私たちの劇団も、そんな彼の視点に共感いたしました。コロナの大変な時代ではありますが、この劇を一人でも多くの方に観ていただき、「生きることに希望と勇気を持ってもらいたい」と思うのです。

そしてもう一つ、再演が決まった時に、佐川町の方から出演者を募集させていただきました。そしたらなんと、住民の方が8人も応募してくださったんですよね。協力者も2名、他、たくさんの方が、チケットの販売協力などのお手伝いをしてくださっています。

牧野博士のふるさとの方々と一緒に、大切な舞台を創り上げていくことができる。彼の歩んだ道を、演劇という形を通して盛り上げていける…そんな喜びを感じています。

朝ドラにご出演される役者さん方と同じ気持ちになったつもりで頑張ります。

「植物分類学者を支えた人」

文・市川 浩司

今年6月13日、東京都立大学の牧野標本館別館で『牧野富太郎植物採集行動録』（「明治・大正篇」2004年刊、「昭和篇」2005年刊）の編者山本正江氏と初めてお会いできました。山本氏は牧野標本館が完成した1958（昭和33）年から4年後の1962年に同館に就職、新聞紙の間に乾燥標本をはさみ、新聞紙上にデータがメモされただけの未整理の状態にあった40万点以上の牧野標本を長年にわたり整理されてきた方のお一人です。

標本清掃から始まり、残されたメモを元に採集地と採集者を書き写し、現在の市町村名を入れる等のラベル作りをするなかで山本氏は、「果してこれは本当に先生の採集品かという疑問のある標本も出てき」たそうです。牧野先生がその時点で在宅されていたのか、或いは地方へ採集に行かれていたのかを確認する必要が出てきました。そのため「標本整理の傍ら行動録の編纂を思い立たれ、先生についての情報を収集」（共編者の田中伸幸氏）、採集地、採集者等が記載された標本情報と牧野植物園所蔵の牧野先生の日記やメモ帳、採集ノート、絵葉書、牧野先生と交流のあった方々の伝記等々を付け合わせながら制作したのがこの『牧野富太郎植物採集行動録』です。牧野先生がいつ、どこで何を採集されたか、誰が同行していたかが分かります。

私は2018年から始めた「朝ドラ牧野の会」の活動のなかで、情報発信をするときのデータベースとしてこの行動録を使わせていただいた旨を報告しました。山本氏からは今でもこの行動録を更新し続けているとお聞きし、稲垣典年先生が「歴代の植物分類学者を支えた人」と山本氏を評されていたことを思い出しました。

牧野標本館は現在、牧野博士が採集された植物標本を中心に、藻類・コケ・シダ・裸子・被子植物など約50万点の標本を所蔵しています。同館を御案内いただいた持田幸良先生に改めて感謝申し上げます。

＊写真は、牧野富太郎生誕祭より「草あそび展」の様子です。

編集後記

「次号どうしましょう？」市川さんと湖月会議をしてから、またしてもうれしい出会いがあり、いろんな方に取材させていただくことができました。

極め付けは「なんということでしょう！ポストに牧野植物行動録の山本正江さんからの便りが届いていました！」と市川さん。感動のあまりか、一夜にして原稿があがってきました（笑）。

牧野博士関連の演劇あり、ミュージカルあり、講演ありで編集作業も楽しかったです。ミュージカルに出演していた子ども達にも署名協力のお礼を直接伝えることができました。牧野博士は「好きなこと」をつきつめられた方ですが、私たちも好きなことを通じて、こうして少しでも頑張っておられる方々の応援ができればと思います。

松田 雅子

こどもたちが、バイカオウレン、ヤッコソウなど、草花の衣装をまとって歌い踊る ミュージカルMAKINOII「♪なまえ」のCD化も決定。

たまたま「朝ドラに牧野富太郎を」の会のメンバーの一人が、高知リトルプレイヤーズシアター（子どもミュージカル劇団）の今までの活動記録をまとめるための編集の手伝いをしたことがありました。その中に「ミュージカルMAKINO」という舞台があったことを思い出し、代表の田村千賀先生に再演のお願いにあがったのが、2018年のこと。田村先生も全力で応援してくださり、「ミュージカルMAKINOII」として上演が決定しました。

この度、舞台で使用された曲「なまえ」のCD化が決定したことを記念して、舞台映像も再DVD化することが決まりました！

高知県立美術館ホールで、約500人の観客に見守られながら上演された舞台は、「博士が名付けた花々になって子どもたちが歌って踊る姿が可愛かった！」「衣装も素晴らしかった！」「お芝居や歌、ダンスのレベルの高さに驚いた！」と好評で、会場でも多くの署名が集まりました。こういった県民一人ひとりの努力が養分となり、うねりとなり、いろんな奇跡がかさなって、遂に夢の花が開きました。

「ミュージカルMAKINOII」の中でもメインの楽曲「なまえ」。牧野富太郎博士は、新種や新品種など約1500種類以上の植物を命名し、日本植物分類学の基礎を築いた人物です。この歌はタイトルの通り「『なまえ』をつけてくれてありがとう！」と子どもたちがいろんな植物の衣装を身に纏って博士に感謝を述べるという場面で使用されます。舞台演出を手掛けられた濱田喜久さんは、「牧野富太郎を題材にしてミュージカルを」と田村さんから依頼があった時、脚本を青森県八戸市在住の後輩に書いてもらうため、打ちあわせに行きました。色々と資料を読みながらミーティングをしたのですが、『雑草という草はない』と植物に名前をつけられた牧野さんにリンクして、漠然と「名前」をテーマにしたいと考えたのです。その折に八戸でシンガーソングライターとして活躍している中島さんという方が『名前』という曲を歌っておられることを脚本家から聞き、早速紹介してもらって聞かせてもらいました。『これだ！』と直感的に感じたものですから「今回のミュージカルにぜひ使いたい」とお願いしたところ、二つ返事でOKをいただいたのです。普段は何気なく自分の名前の意味なんて考えながら生活したことがなかったものですから、改めて考えるキッカケになればと思いましたし」と教えてくれました。

田村千賀先生が「この舞台にぴったりのすばらしい歌」と絶賛された曲です。是非、たくさんの方々に聞いていただけたらと思います。

高知県立牧野植物園で開催された、朝井まかてさんの講演会報告 その2
実は「ボタニカ」を刊行後、最初の妻である猶（なお）さん人気がすごいんです！

あの講演会をもう一度！

うれしいことに、高知県立牧野植物園の公式サイトにて、この日の講演動画が公開されました。本当に素晴らしい内容でしいたので、是非、たくさんの方にご紹介させていただきたいと思います。

以下、牧野植物園より。

植物分類学者　牧野博士の生涯を描いた長編小説「ボタニカ」の著書、朝井まかてさんを講師にお招きし、牧野博士の魅力や執筆時の舞台裏まで、軽快な語り口であますことなくお話しくださいました。お申し込み日からあっという間に定員となった本講演。「その話が聞きたかった！」とのお声が数多く寄せられました。当日講演会に参加できなかった皆さまをはじめ、当日ご参加いただきました皆さまに、朝井さんが語る「富さん」にまつわる熱いお話をもう一度ご覧ただきたく、講演動画を公開いたします。

牧野富太郎生誕
160年講演会
「愛すべき天才の情熱」

「富さんは「きっとこういう風に考えて、こう動くんだろうなぁ」と思えるまで自分も動く。『ボタニカ』とは、そういう仕事でした」。

朝井まかてさんは、柔らかな関西弁で、取材の日々を語ってくださった。その中で特に興味深かったのが、牧野博士を支えた2人の妻の存在だ。

「牧野富太郎という人は、どんなに大変でも『なんとかなるろう』という人ですよね。実際には『なんとかならない』わけですので、周りが『なんとかするしかない』」。

「妻の寿衛さんの場合、一緒に暮らし始めた頃は、『牧チャン』が頼りの可愛い女の子でした。しかし、次第に彼を支える芯の強い女性へと変わっていく。富さんを囲む人の中では最も成長した人だったのではないでしょうか。最後まで富さんに恋をしていたからこそ、尊敬していたからこそだと私は思います」。

「実は『ボタニカ』を刊行後、最初の妻である「猶さん」人気がすごいんですよ。土佐の女性らしい気丈さと賢さを兼ね備えていて、いざとなったら実にさっぱりしている。度量が大きいというのか、富太郎一家が貧しくて大変な時もかなり面倒を見ている」。

猶さんは「元妻」ではなく「牧野の従妹でございます」と名乗り、壽衛さんは、娘の婚礼仕度についても、猶さんに相談に乗ってもらっていたそうだ。

友人である司牡丹酒造株式会社の竹村昭彦氏の曾祖父が明治の終わり頃、牧野富太郎博士の生家であった井上和之助酒店を買収し、竹村源十郎支店として開店したという話は聞いたことがある。「その井上和之介さんの嫁になったがが猶さんやき」と竹村氏は言った。

猶さんが自分を押し殺すような辛い我慢の人生でなく、さっぱり幸せになって、さらに人間愛で包み込むように富太郎一家を助け、間接的に牧野博士の研究を助けたことには「ブラボー」と拍手を送らずにはいられない。

祥伝社 ボタニカ 朝井まかて 特設サイト のご紹介

貧苦にめげず、不屈の魂で知の 種 ボタニカ を究め続けた
稀代の植物学者を描く、感動の長編小説。新たなる傑作ここに誕生！

子沢山、大食え、大酒はクビ？
それでも「なんとかなるろう」と
野山を駆け巡る。
そんな天才植物学者を
書きました。私も自分の
"好き"を信じているから。
朝井まかて

祥伝社 ボタニカ
朝井まかて 特設サイト

～ Thanks for MAKINO ～

4年間に感謝。　スエコザサ　&
リトルミュージカル「MAKINO2」フィルム上映会

■日程：12月11日（日）
■会場：高知市立自由民権記念館ホール
高知県高知市桟橋通4丁目14-3 TEL：088-831-3336
■ドキュメンタリー映像上映　無料
13:00～14:00（関係者のみ）
■一般入場（チケット入場）
14:10～「♪スエコザサ」ライブ
14:30～16:00　リトルプレイヤーズシアター
「ミュージカル MAKINOⅡ」映像上映

「MAKINO２」DVD　&
メインテーマ「なまえ」CDセット
チケット販売はこちらから
https://saisaionline.stores.jp